

「頸損者の介護保険利用に関する実態調査」経過報告

大阪頸髄損傷者連絡会 事務局長 島本義信

大阪頸髄損傷者連絡会が中心となり、全国の頸損会員の皆様に協力していただいたアンケート調査は多くの回答を得て、現在まとめの作業に入っています。

皆様、本当にありがとうございました。

調査の経過と予定

頸損者にとって65歳到達時、介護保険制度利用の課題については、全国頸損連でも年間取り組み課題に掲げているところであったところから、今後65歳に到達する会員は増えていくことを見据えて、会員が介護保険制度の利用あるいは事前準備等、実際にはどのようにしているのか実態把握していくために、2015.9.6の代表者会議で認めていただいた、実態調査を全国頸損連絡会としても実施しました。

現在分析とまとめの作業を進めているところで、簡単な経過報告をいたします。

<経過>

- 2015.10.27 全国頸損連絡会のMLにて実態調査アンケートの協力をお願い
- 2015.11.02 全国頸損連絡会の会員へ実態調査アンケートを発送 (510通)
- 2015.11.30 実態調査アンケートの締め切り (返信数、メール33通、郵送122通)
返信数が全体の3割を超え、みなさんのご協力に感謝いたします。
- 2015.12.01 データ集約の準備をし、大阪支部の役員6名でデータ集約を始める
- 2015.12.27 データ集約終了、データ整理(分析と評価)を始める
(名古屋産業大学 特任講師 丸岡稔典氏)
- 2016.01.25 当事者への事例調査の準備、移行した当事者2名、準備中の当事者2名
- 2016.03.06 代表者会議にて経過報告

<今後の予定>

- 2016.03.末 データ整理(分析と評価)終了の予定 まとめの作業を始める
- 2016.06.末 調査結果のフィードバックは全国頸損機関誌に掲載(原稿締切)予定

現状までの報告は以上のようなものですが、分析詳細は次号に掲載する予定です。

当会が協力したアンケート調査(前号から3月現在まで)

「災害対策アンケート調査」

担当者・東京大学 高齢社会総合研究機構 高橋競氏

「優先福祉用具WHOモデルリスト 世界規模調査」

依頼者・国立リハセンター研究所 福祉機器開発部長 井上剛伸氏

「在宅身体障害者の住まいに関する実態調査」

担当者・神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 糟谷佐紀氏

結果報告は、後日機関誌に掲載予定です。